

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(40)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(40)—

1. 始めに

前報(39)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もピアノソナタの曲です。

ドイツグラモフォン 15MG 3065

モーツアルト ピアノソナタ 7 番ハ長調

ピアノソナタ 5 番ト長調

ピアノソナタ 6 番ニ長調

クリストフ・エッシェンバッハ (ピアノ)

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

ドイツグラモフォン盤ということで、TELDEC、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。

前報(39)に続いてのエッシェンバッハによるモーツアルトの初期のピアノソナタの演奏です。

上記のモーツアルトの初期のピアノソナタは、軽やかで親しみやすい曲でエッシェンバッハの演奏も曲の特性に併せて、クリーンで軽快な演奏です。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入の交換など

の総合的な効果として、モーツアルトの初期のピアノソナタのエッセンバッハの
クリーンで軽快な演奏が聴けました。

以上